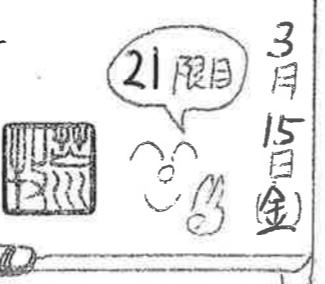


三加和
中学校
学校より

磨きあう



あこがれの先輩とは？

先週卒業式があり、3年生が旅立っていきました。(いよいよ2年生は最上級生となり)、1年生は先輩としての立場になります。そこで、今回は先輩というイメージについて話をしたいと思います。私は、小・中・高とサッカーをしていて、よく全国大会に出場する有名なチームに所属していました。当然、練習も厳しければ、先輩たちも厳しかったです。中学生ともなると、上の先輩はもう3人のことですが、2つ上の先輩ともなると、まさに雲の上の存在で、話しかけることもできないような上下関係でした。事実、その二番恐しかったのは、親でも先生でも不良でもなく、サッカーチームの先輩でした。『先輩の言葉は絶対であり、何者にも優先する』という状況で、先輩たちに指導され、鍛えられていました。しかし、そんな状況にもかかわらず、私たちの中には、不思議と先輩に対して「まかつく?」とか「好かん?」といった悪い感情を持つ人はいませんでした。それはなぜかと思ひますか?

理由は簡単です。先輩たちがみんな、サッカーに対して真剣に取り組み、私たち以上に練習に励んでいたからです。先輩たちは、私たちに厳しかったのですが、それ以上に自分たちに厳しかったのです。それはサッカーに対する姿勢だけでなく、日常生活や学習に対してもそうでした。悪さをすればもう3人のこと、

成績がよければ、練習には参加させてもうえまい。行った学校は、県内でも名をとどめさせるほど「荒れていた学校で、校内暴力真盛りでしたか」、先輩たちはぶれることなく、正しいことを自信もって行い、間違っていることは間違っているとして、周りに流されずに温ごしていました。また、私たちができることに対しては、丁寧にあかりやすく一生懸命に教えてくれ、逆にできることをしなかったり、間違ったことをしたりした時には、それはそれは尋常じゃなくSNSで怒られました。だから、こうした先輩の姿を見て、『先輩たちは、すげーな』『自分も先輩たちみたいになりたいな』とあこがれていました。

2年生はすでにそうですが、1年生の皆さんも、もうすぐ「先輩」になります。皆さんのお姿は後輩の目にどう映るでしょうか?先輩として、どんな三加和中生の後ろ姿を、今の6年生に見せていくのでしょうか?朝から正門一礼をして登校している人がいる、私が気づいていないでも、大きな声で挨拶してくれる人がいる、荷物を運ぼうとしたら、きっと寄ってきて「持て行きます」と声をかけてくれる人がいる、みんなで楽しめるような企画を考え、「こんなことしたいんですけど」と提案しに来てくれる人がいる。もうすでに「あこがれの先輩」として行動できている人もいれば、「自分には、こんなことが足りないな...」と感じてる人もいると思ひます。はじめから完璧な先輩なんていませんよ。でも、そういうのを思って自分を高めていれば、少しずつ理想の自分に近づいてきます。尊敬されるか、あきれるかは皆さんは次第です。もと自分に自信を持て、そしてさらに、自分に厳しく、自分を磨き上げる『あこがれの先輩』となっていました。

この1年間、保護者の皆様には、学校教育活動にご理解とご協力をいただきありがとうございました。学校の対応に色々と思うところがあたかと思いますが、厚意的に協力、理解をしていただきありがとうございました。

